



2007年3月28日(水)「八王子城山ハイキング」に出かけました。高尾駅からバスで10分ということでしたが、そのようなバスはなく、徒歩50分で八王子城跡に到着しました。八王子城山は、城跡の公園として管理されています。今回のハイキングは楽勝という気分で歩き始め、少し遅い昼ご飯を“多摩森林科学園”のサクラを眺めながら食べようと思っていたのです。

ところが、八王子城の本丸があった“八王子城山”山頂へは、40分ほどの散策だったのですが、そこからは思い描いたものとは違い、立派な山歩きだったのです。

サクラを見ながら食べるはずの昼食は、コースのほぼ中間地点の“富士見台”で食べ、多摩森林科学園に着いたのはなんと、15時過ぎ。しかも、閉園時間は、16時。それでも、途中で買った濁り酒を持ち込み入園し、ちょっとだけ咲いていたサクラの横にあった喫煙所に陣取り、乾杯します。

なんだか、昔なつかしい中学生あたりの気分になった1日でした。



バス路線はなくなっていた！

平日、8時30分の八王子駅の横浜線ホームは、通勤・通学の人で大混雑。でも、電車から下りた、たくさんの人々はまっすぐ階段へ向かい、八王子から横浜線に乗る人は少なく、ホームに滞留する人はほとんどいません。電車が到着した時さえ注意すれば、ここの通勤・通学ラッシュは静かなものです。そんな、八王子駅横浜線ホームに集合したのは、小野勝彦さん、加藤忠さん、宮部忠和さん、板垣実さん、向山三郎さん、加々井悦朗さん、町田行弘の7名です。ここ数ヶ月平日にイベントを行っているため、加藤純代さんと横山和明さんは、参加したくても参加できない状態となっているとのこと。日曜日の企画も考えなくては...

中央線に乗り、高尾駅北口に降ります。ガイドブックによれば、ここから八王子城跡まで、バスがあるはずなのですが、どうも、駅前のバスターミナルからは、そのようなバスは出ていない様子。途中のバス停で乗れば確実だろうと、とりあえず、歩き出しました。駅前の道路で国道20号を渡って直進します。坂を上ると左に多摩森林科学園の入口があり、開園を待っている人が2名。ここは後ほどと通り過ぎます。多摩森林科学園なるバス停があるかと期待したのですが、バス停はなく、歩き続けます。高尾駅から約20分、ようやくバス停発見！しかし、八王子城跡に行くバスは、見当たりません。少し手前にあった花屋で尋ねると「ここから1キロくらいだから歩いた方が速いよ」と言われ、バスはあきらめました。やがて、中央高速をくぐり、“八王子城

跡入口”という交差点を左折します。このあたりは、霊園が多いため、石材店がひしめいています。そんなに需要があって、そんなに儲かるのかしら？しかも、どこかの店が勝つ残るわけでもなく、どこも、存在し続けているのですから不思議です。



公園散策...

八王子霊園を過ぎると間もなく、八王子城跡に到着しました。駐車場・管理棟・トイレがあり、公園として管理されています。“これなら、小さな山がある公園の中を散策するようなもの。そして、昼過ぎには、さきほどの多摩森林科学園でお花見だ”という気分にも早くもなっていたのです。それなら、のんびり歩

こうと、ベンチがあるところでは休憩して、八王子城本丸のある八王子城山をゆっくり登って行きました。途中、展望の開ける場所があり、すぐ下には八王子の街、遠くには新宿副都心が確認できました。なるほど、城を構えるには都合の良い山だと実感してしまいます。

この八王子城は、北条氏照が多摩川と秋川の合流点の地形を利用した滝山城に限界を感じ、1587年、織田信長の安土城を参考に築城しました。1590年、天下統一を進める豊臣軍に攻められ、1日で落城してしまいます。

管理棟から歩き始めて約50分、八王子神社に着きました。八王子神社は、牛頭天王の8人の子“八王子権現”を祀っていて、そのことから、八王子城と名付けられ、現在の八王子市の名前の由来となりました。本丸は、この神社の北側の高みにあり、そこが八王子城山の山頂。再びここまで戻ることになるのですが、せっかくなので上ってみることにしました。急な坂道を数分で山頂に到着しますが、小さな祠と“八王子城本丸址”と彫られた石碑があるだけで、期待した展望はありませんでした。この時、時刻は、10時50分。





本格的な（？）山道へ

神社へ戻り、富士見台を目指して歩き始めます。しかし、富士見台という標識はなく、景信山・高尾山方面の案内があるばかり。他に向かう道はないので、その方向に下りていきます。まもなく、八王子城の水場だった井戸がありました。まさか水は出ないだろうと思いつつも、宮部さんがハンドルを動かすと水が出てきたのでビックリ！加々井さんは、味見もしたのでさらにビックリ！大丈夫ですか？



八王子城山を下りながら、いくつかの分岐があるのですが、富士見台の文字はなく、“裏高尾縦走路”となっていてちょっと不安になります。縦走路なんてすごい言葉、気軽な気持ちで行ったら帰れなくなって遭難してしまいそうです。そんな不安も束の間、富士見台の文字がありました。方角は、今まで出てきた“景信山・高尾山・裏高尾縦走路”と同じです。そういえば、井戸のあたりから、八王子城跡の公園の雰囲気はなくなり、それまでと比較するとどんどん山奥に入っていくような感じがします。下ったと思えば上りが現れ、それが繰り返されます。井戸から20分、“八王子城天守閣跡”に着きました。随分、八王子城とはほど遠くなったと思ったのにここも城跡でした。



サクラを見ながらお弁当のはずか...

道は、相変わらず上り下りを繰り返し、その傾斜は以前より急になった感じがします。ただ、もう疲れたと嫌気がさす前に上りにしても下りにしても終わるので身体は楽(?)なのですが、いったい富士見台にはいつ着くの？と、その時、上半身裸になった男性中年ハイカーが追い越して行きました。「すみません。暑くて脱いじゃいました」と言いながら。そして「そこを登れば富士見台だよ」と教えてくれました。それからしばらくすると、分岐が現れました。左が富士見台、右が堂所山を経て明王峠・陣馬山となっています。そして、左へ折れるとすぐに富士見台でした。時刻は、12時10分。八王子城山から1時間20分。ガイドブックでは50分となっていたのに...。富士見台というからには富士山は？「あった、あった、あそこにうっすらと！」お昼過ぎには多摩森林科学園のサクラ...、という計画はもう無理。ここで昼食とすることにします。ところが、サクラを見ながらと考えていた町田は、お弁当を持っていません。「すみません、少し分けて下さい」と小野さん、加藤さん、加々井さんから少し分けてもらいます。





最初のイメージが甘すぎた！

12時50分、朝歩き出した管理棟を目指して出発します。富士見台は、北高尾山稜という尾根上にあり、やって来た方向へは堂所山、反対の進行方向は、裏高尾の蛇滝口に下りて行きます。尾道は上りを織りまぜながら徐々に下ります。そして、約30分、八王子城跡下という標識のある分岐を左に折れました。再び八王子城の領域に侵入すると、急勾配の場所には、ロープが張られていたり、木で組まれた階段（今にも崩れそうでしたが）があったり、公園の管理（？）の気配を感じます。一気に高度が下がると水が涸れてしまった川を歩き、そこに水が現れると、左側の整備された林道を進みます。尾根道から分かれて25分、“御主殿跡・曳き橋”の標識



があり、八王子城跡に戻って来ました。御主殿跡は、芝生の広場になっていて、八王子城主、北条氏照が居住した場所です。立派に復元された曳き橋を渡り、先程歩いていた道と城山川を渡り、古道を歩き、再び城山川を渡ると管理棟はすぐそこです。



管理棟に着いた時、14時をまわっていました。「結構きつかったですね」「最初のイメージが甘すぎただけですよ」「多摩森林科学園まで歩きますか？」「もちろん！」ということは、みんな元気です。

不良中高年の隠れ酒

途中の酒屋で濁り酒とつまみを買ひ、多摩森林科学園に到着したのは、15時15分。16時閉園でしたが、買うものを買ったのだから入るしかありません。足早にサクラのエリアを目指したのですが、どうも、サクラはまだ咲いていません。咲いているサクラを探している余裕なんてありません。そして、人目を避けて酒を飲む場所を探す余裕もありませんでした（ここは、酒類持ち込み禁止なのです）。ちょうどよい場所に塀で囲まれた適度な広さの喫煙所があり、そこでお酒を飲むことにします。人目をはばかりながら飲む酒は、なんとなく落ち着かないのですが、中学生の頃、先生に隠れて悪さをするようななつかしい感じがします。幸い、喫煙所に訪れる人もなく、誰にも見つからず、短い時間で隠れ酒を楽しみ、多摩森林科学園をあとにし、高尾駅までのんびりと歩きました。





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
加藤忠	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
板垣実	194-0032	東京都町田市本町田 2577 ホ -22-101 042-793-1271
向山三郎	194-0204	東京都町田市小山田桜台 1-735-2 042-797-4329
加々井悦朗	194-0043	東京都町田市成瀬台 3-11-7 042-727-0546

